



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

「波紋」

2月から語学勉強を始めた。よく、なんで始めたの？いつ使うの？なんのために？と聞かれるけど、特に理由はない。やりたいからやっとする。音楽や仕事で使えばいいし、外国に友達も作れるし、言語や文法からその国の文化が見えてきて面白い。なにより、自分の世界が広がる。なかなか上達せんけど毎日楽しい。

私の通っている教室は週に1回グループレッスンがある。そこで授業の最後に宿題が出されるんやけど、やって行くのは私だけやった。なかなか授業が進まず毎回もどかしい気持ちになりながら、授業料分はきっちり取り返す！（なんならそれ以上）という貧乏性とても言おうか"もったいない精神"で私は毎回出された宿題の2倍の量をやっていった。いつからかみんなも倍やってくるようになって、それが当たり前になった。授業はスムーズになって、先生はそれまで以上に楽しそうで、生徒みんなも生き生きとする。大きな池に水が一滴落ちると波紋となって広がっていく。良いことも悪いことも同じように。

私がしたことは本当に本当に小さいことやったけど、その結果に自分自身が勇気をもらえた出来事やった。

(テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.119



「十人十色」



十月だからというわけではないのだが、十人十色という言葉がある。十人いれば十通りの性格や考えがあるということを、色に例えて表している。

この十人十色を地で行くのが、ヒトデヤドリエビという1センチメートルほどの小さなエビだ。アカヒトデの裏側に住んでいることが多いので、ダイビング中にアカヒトデを見つくと、つつひっくり返してしまう。ヒトデにはいい迷惑だろう。

その日もワクワクしながらアカヒトデをひっくり返すと、多くのヒトデヤドリエビがいた。すぐに裏側へ逃げてしまうので、撮影



【ヒトデヤドリエビは、何匹いるでしょうか？】

が難しい。なんとか4匹を一枚の写真に収めることができた。

まさに十人十色。これだけ色が違うのに同じ種類のエビなのだから不思議としか言いようがない。海の中は不思議だらけである。

(撮影地：野地島)

愛南サンゴを守る会 西尾知照 ともてる